第５回　美旗市民大学紙上講座
～伝統文化継承の地　小波田～

本年度はコロナウィルス感染拡大防止のため**美旗市民大学講座**を紙面にて、テーマを**「美旗まち歩き」**として展開しています。

天正伊賀の乱　天正６年（1578年）織田信長の次男、北畠信雄（きたばたけのぶかつ）は独断で伊賀攻めを行い、ゲリラ戦にたけた伊賀勢に惨敗を喫した（第一次天正伊賀の乱）それを知った父 信長は「言語道断曲事の次第に候」（信長公記より）と激怒。天正９年（1581年）信雄を総大将として４万４千（伊乱記より）もの大軍を伊賀に攻め込ませた。伊賀勢は全滅（第二次天正伊賀の乱）信長から「必ず首を取れ」と名指しされたほどの小波田父子兄弟三人も討死したと『信長公記』に記されている。本能寺の変（1582年）の１年前の事であった。

滝川氏城跡（下小波田）

天正伊賀の乱の際に、北畠信雄の主陣として、信雄の家臣滝川三郎兵衛が築いた中世城館。およそ７５間四方あり㊟**＊単郭式四方土塁型**では**三重県最大規模**。土塁やその周囲をめぐる空堀もほぼ良好に残っている。虎口は、南北にあり、南側には丸馬出しのような出丸が設けられ、その周囲の土塁も良好に残っている。

『信長公記（しんちょうこうき）』にも信長が「奥郡小波田と申す所迄、御家来衆十人計り召しつれられ御見舞」とあるので、皆さんも信長がそこに立ったのだなと思いながら訪れてみてはいかがでしょうか。

大池跡（上小波田）上小波田から滝之原へのコリドールロードの稲荷社の周辺。新田開発にあたり藤堂藩は1655年に大池と東之狭間池（とのはざまいけ）を作りました。3年後に東之狭間池が決壊、その後1675年に大池が決壊し、小波田は甚大な被害を受けました。

桜町中将跡（下小波田）

桜町中将とは、織田信長の次男、信雄（のぶかつ）のことで、北畠家の養子になり北畠中将信雄と呼ばれていて、京都の屋敷が桜町にあったことからこの呼称となりました。

㊟**＊単郭式四方土塁型（たんかくしきしほうどるいがた）**一つの館で方形の周りに土塁がめぐらされている型。

火縄　小波田で火縄づくりが始まったのが寛文１１年（1671年）最初は火縄銃に使う軍事物として、藤堂藩の保護のもとに生産されていました。
明治１０年代には上・下小波田の全農家が農閑期を利用して火縄づくりに従事していたようです。

その後は「上小波田火縄組合」として技術を受け継ぎ、現在は「火縄保存会」として６名の後継者が作業にいそしんでいます。

京都 八坂神社のおけら参りだけでなく、昨年からは美波多神社の火除守りとしても販売しています。

竹原城屋敷跡（上小波田）

㊟単郭四方土塁の城跡で、名張と阿保を結ぶ結節点にあたる位置に所在する。主郭の平坦面は約28m×36mほどである。土塁などは南側以外は削られて原型を残さないが、道の両側には出郭が造られた本格的な城館である。観阿弥が座を興したのは、小波田の領主、竹原大覚の援助によりなしえたとされる。

１１月１日（日）には「観阿弥祭」を観阿弥ふるさと公園にて開催

観阿弥創座の地　１３３３年伊賀で生まれた観阿弥は、その後大和の猿楽師のもとで修業し、やがて妻の実家の小波田領主、竹原氏の助成で念願の一座の旗揚げを行いました。上小波田地区の福田神社跡に**「観阿弥ふるさと公園」**が整備され、毎年１１月第１日曜に「観阿弥祭」を開催し、観阿弥を顕彰しています。

「能楽」とは「能」と「狂言」を合わせた舞台芸術です。能は悲劇的なものが多く、主に歴史上の神話を能面をつけて演じる歌舞劇。狂言は、日常の滑稽な部分を題材にした寸劇です。

名張子ども狂言の会　観阿弥創座の地にちなみ、名張市観阿弥顕彰会は「名張子ども狂言の会」を平成３年４月に発足させました。大蔵流狂言師、茂山七五三（しげやましめ）先生からはじまり、現在は茂山宗彦（もとひこ）先生の指導を受けています。

過去には、国民文化祭や東京国立劇場への出演、さらにはアメリカオレゴン州アシュランド市での海外公演も行いました。美旗小学校の皆さんも習ってみませんか？

ぶどう栽培　美旗ぶどうの始まりは昭和３６年頃で、上下小波田全戸が取り組みました。現在は下小波田の１４軒の方が栽培されています。美旗は盆地で寒暖差が大きく、栽培に適しているそうです。

来月号は、第６回「西原町物語」です。